

スポーツと文化		講義	教授 平沢 信康
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220110 12220131 13220135

### 1. 授業のねらい・概要

今日、世の中には様々なスポーツ競技種目が存在する。世界中の人々がプレーを楽しみ、また数多くの人々がスポーツを観戦している。本講義では、スポーツの歴史を先史時代・古代より、文化の相において、人類史的観点から多角的に考察するものである。

とくに文化史の視点から、ときには文化人類学的観点も交えながら、スポーツ史について検討する。現代のスポーツ・ジャーナリズム情報とは異なり、世界史的教養をスポーツ史の視点から深めるものである。

### 2. 授業の進め方

基本的には、講義内容の概要を記したプリントを配布し、その講義要旨（レジュメ）に沿って解説する。適宜、PowerPoint を活用してテーマに関係する画像をスクリーンに映して紹介しつつ、そのビジュアルな情報を以てレクチャーの理解を補う方法で進める。

### 3. 授業計画

1. 「スポーツ」とは何か？ — 語義と語法	9. 近代フットボールの成立と派生形
2. スポーツの歴史 — その概観と種類（類別）	10. 球を棒等で打つ競技の誕生と歴史
3. オリンピックの歴史と文化	11. 体操という身体運動文化の近代史
4. 祭典・祝祭とスポーツ	12. 近代球技スポーツの文化史
5. スポーツと宗教	13. 日本における近代スポーツの紹介と導入
6. スポーツと社会階級	14. 近代日本におけるスポーツの普及と発展 — 学生野球の歴史を中心に
7. 体育スポーツ施設の文化	15. 西欧諸国におけるスポーツクラブという組織文化
8. 足で蹴る球技スポーツの歴史 — フットボールとバスケットボールを中心に	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

以下の参考文献を次回講義までに読んで予習（30分程度）すること。また配布プリントの内容を復習（30分程度）しておくこと。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了時に記してもらおう出席票兼用の「感想メモ帳」に書かれた小文に対して、誤字の添削を含めたコメントを付して次週の講義冒頭に返却するので、注視されたい。

また学期末試験の終了後、特に注意を喚起すべき事項（多かった誤答など）について指摘した講評を掲示する。

### 6. 授業における学修の到達目標

文化としてのスポーツの創造や誕生の歴史（ルーツや創始者）および文化としてのスポーツの国際的な伝播について理解を深め、説明できるようになることをめざす。

### 7. 成績評価の方法・基準

学期末に実施する筆記試験と平常点とを総合して評価する。評点の配分割合は、期末試験（55%）、平常点（45%）とする。

平常点については、各回講義の終了時に記してもらい出席票兼用「感想メモ帳」のコメント（質問を含む）の筆記内容および濃淡等で、講義に臨む関心と意欲および理解の程度を評価する。

#### **8. テキスト・参考文献**

木村毅『日本スポーツ文化史』ベースボール・マガジン社、1978年  
ハイナー・ギルマイスター『テニスの文化史』大修館書店、1993年  
寒川恒夫編著『スポーツ文化論』杏林書院、1994年  
杉本厚夫『スポーツ文化の変容：多様化と画一化の文化秩序』世界思想社、1995年  
鈴木守、山本理人編著『スポーツ文化の現在（いま）』道和書院、2000年  
稲垣正浩編著『スポーツ文化の「現在」を探る』叢文社、2002年  
井上俊、菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房、2012年

#### **9. 受講上の留意事項**

講義中は私語を慎み、居眠りをしないこと。可能な限り、上記参考文献をはじめとするスポーツ文化（史）の文献に親しむこと。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。